

令和元年度第9回 感染症発生動向調査部会  
議事要旨

1 日 時 令和元年12月18日(水) 14:00～

2 場 所 岐阜大学医学部本館 1階 入札室(岐阜市柳戸1-1)

3 出席者

委 員 : 馬場 尚志(岐阜大学医学部附属病院 生体支援センター 副センター長)  
大西 秀典(岐阜大学医学部附属病院 小児科 准教授)  
澤田 明(岐阜大学医学部附属病院 眼科 講師)  
加藤 達雄(国立病院機構長良医療センター 呼吸器内科統括診療部長)  
石山 俊次(石山泌尿器科皮膚科)

事 務 局 : 居波 由紀子(保健医療課 主幹兼感染症対策係長)  
中澤 千怜(保健医療課 技師)  
田村 直彦(保健環境研究所 疫学情報部長)  
岡 隆史(保健環境研究所 主任専門研究員)  
酢谷 奈津(保健環境研究所 専門研究員)

4 議 題 (進行:馬場委員)

- (1) 前月の感染症発生動向について
- (2) 検討すべき課題について
- (3) 情報提供すべき事項について
- (4) 情報提供(月番委員専門分野から)
- (5) その他

5 議事要旨

【前月の感染症発生動向について】

- ・事務局からの説明は資料のとおり。
- ・月番委員のコメントについては資料のとおり。

【検討すべき課題について】

○感染症に関する情報サイトの整備・充実について

(馬場委員)

・岐阜県/岐阜県感染症情報センターのウェブサイトには、各種感染症情報が掲載されているが、情報が分散している状況である。例えば輸入感染症など、あるテーマに関する情報を集約したページを作るなどして、医療関係者あるいは一般の人が欲しい情報にたどり着きやすい工夫をしてはどうか。

## ○疑似症サーベイランスの運用について

(保健医療課)

・ 前回の部会での意見聴取を踏まえ、岐阜県での疑似症サーベイランスの運用案を再検討した結果を報告。マスギャザリング時のゼロ報告については、疑似症定点の意見を踏まえた上で柔軟に対応すること、マスギャザリング時（直近ではオリンピック・パラリンピックの選手合宿）は、地域や期間を限定して疑似症定点を追加指定することも考えている。

(委員からの意見等)

・ マスギャザリング時に疑似症定点を追加指定する際には、疑似症定点はサーベイランスの報告医療機関であって、これを以て患者受け入れ医療機関として指定するものではないことを説明する必要がある。  
・ オリンピック・パラリンピックの選手合宿については、各国チームが選手の受け入れ医療機関を決めるのであれば、それを待って同じ医療機関を疑似症定点に指定するのがよいのではないかと。

(保健医療課)

・ 疑似症定点の追加指定については、今後再検討したい。2月に、現在指定している疑似症定点や保健所を対象とした研修会を開催予定。

## 【情報提供すべき事項について】

(馬場委員)

・ 渡航者（旅行者）感染症について

年末年始の海外旅行者の増加、来年のオリンピックに向けて前述の情報サイトの充実も含め、情報提供・注意喚起が必要。

## 【情報提供（月番委員専門分野から）】

(馬場委員)

・ 国の薬剤耐性（AMR）対策について

AMR 対策に関する各種情報サイト等の紹介

(石山委員)

・ 梅毒対策に関する国の事業（服薬確認等）について

新聞情報によると、来年度、厚生労働省が保健所を通じ梅毒患者の服薬の確認を行うなどの事業を行う予定。患者の多い都市部から始める予定とのことであるが、詳細は未定。

## 【保健医療課から情報提供】

(事務局・保健医療課)

・ 厚生労働省からの感染症関連通知、お知らせ等情報提供。